

新人幼兒を迎へて

附屬小學校主事 堀 七 藏

一

新に入園する幼兒を迎へたる幼稚園保育について第一に希望したきことは幼兒が喜んで幼稚園に毎日通ふやうに仕向けることがあります。また親が是非幼稚園に入園せしめねばならぬ義務もあります。多くは親がその子供を幼稚園に入園させるもので、幼兒は親が幼稚園に入れたから幼稚園に来るといふだけあります。而してわが兒を幼稚園に入れる親達には眞に幼稚園保育の必要を痛感してゐるものは勿論少くないことであります。しかし中には單にわが兒が手足繩になるがために家庭に置くことが出来ないので、幼稚園に入れるといふ方もあります。即ち托児所に子供を預けるやうに考へて幼稚園に幼兒を入れさせるものも相當あります。また隣近所にはよい遊び友達がないから幼稚園に入れてやらうといふ考の親達もあります。時には見栄のためにわが兒を幼稚園に入れるのではないかと思はれるやうのものないではありますまい。また幼稚園に入れるのは小學校入學のときよいからといふやうに小學校の準備教育として幼稚園保育を考へてゐる人が相當多いかも知れないのであります。何れにしても新人幼兒は自分からすゝんで幼稚園に入園するものでないことは事實であります。

二

かゝる幼兒を新に入園させるのであるから、第一に將を得んとすれば馬を射よといふわけかどうか知りませんが、親達

の歎心を買ふことを第一として幼稚園を經營し、幼兒を保育することを第二とすることがあるかも知れません。成程幼稚園としては在園幼兒が多くないと經營が出来ませんから、幼兒の多く入園することを希望すると、幼兒の父兄に先づ幼稚園を理解せしめることが肝要であります。恰もコドモ向の繪本、玩具などの賣行のよい爲には大人の心を引込むことが肝要であるとの同じであります。繪本、玩具はコドモの欲しがるやうに、幼兒の心を引つける工夫も出来ますが、幼稚園では中々それが出来ないのであります。それに加へて幼稚園は相當な保育料をとるのであります。繪本、玩具ならば「買つてよ／＼」と幼兒が親にせがむけれども、幼稚園では幼兒から入れて下さい」と願ふが如きことは先づ皆無であります。それで幼稚園の發展策を講ずるが爲には、どうしても幼兒をもてる親達の理解を得ることを専ら講究せねばならぬことは誰でも首肯するところであります。しかし幼兒の親達に幼稚園を眞に理解させることは誠に肝要であります。が、保育料を支拂ふから何かお土産を持たせて幼兒を歸らせるとか、小學校の教科を幼稚園で教へるからといふやうなことで、親の歎心を買ふ手段を講ずることは誠に考へ物であると思ふのであります。

三

幼稚園の發展策は勿論幼兒の父兄に幼稚園保育の重要なことを眞に理解させることが肝要であります。けれども先づ入園した幼兒が「幼稚園に行くのはいやだ」とか、幼稚園に行くとき泣くといふやうなことのないやうに仕向けねばなりません。幼稚園に入園した幼兒が幼稚園が面白くて面白くて、どうしても幼稚園に行かないでは居られないといふやうに、幼稚園を幼兒の樂園とせねばなりません。親達の方で「幼稚園へ行くな」といふと、幼兒が泣く位でなくてはなりません。幼兒がいや／＼幼稚園に行き、泣き／＼幼稚園に出かけるやうでは幼稚園の保育の價値は零だといつても差支ありません。幼稚園はその名稱の如く、幼兒の樂園で、幼兒が楽しく生活し得るところでなくてはなりません。幼兒が楽しく幼稚園生活をなすことによりて幼稚園保育の目的が達成せられることは申すまでもないことであります。幼稚園に於て、小學

校や中等學校のやうに學習本位で、幼兒を机腰掛に釘づけとなし、只「お行儀よくなさい」、「静かになさい」と、活動そのものともいふべき幼兒を束縛して保育するやうでは、幼兒をして幼稚園をいやがらせるだけであります。かくては幼稚園に於て多少の知識を授けることが出来ても、それは眞の幼稚園保育ではありません。幼稚園はどこまでも幼兒が楽しく生活することの出来る樂園でなくては、その目的が達せられないであります。幼稚園令第一條を引用するまでもなく、幼稚園は幼兒を保育してその身體精神を健全に發達せしめ、善良なる性情を涵養することが肝要であります。

四

幼稚園を幼兒の樂しき生活場所となすに左程六ヶしい方法があるのはありません。幼兒に「幼稚園は樂しいでせう」「面白いでせう」「毎日缺席しないで御出でなさい」と説明しても、幼兒には十分徹底するものではありません。「面白い所、楽しいところ」と説明するよりも、幼兒が「どうしても幼稚園に行く」と親達にせがむやうにせねばなりません。それには無理のない、幼兒そのままの生活をさせることであります。といつても幼兒にお菓子を與へたり、幼兒にお土産を持たせることをいふではありません。要是幼兒の生活に無理な束縛をなさず、幼兒をして樂しく遊ばせることであります。幼兒の全生活を上げて遊ぶことであります。同年齢または年齢の近寄つた幼兒が、我を忘れて一生懸命に遊ぶことが出来るやうに、幼兒の生活に無理な束縛をしないことが肝要であります。幼兒は大人と遊ぶよりも幼兒同志遊ぶことを好みます。幼兒が大人と遊ぶことは、大人が幼兒と遊ぶことよりも、一層苦痛であります。幼兒が眞に楽しく遊ぶ、眞剣な遊びは幼兒同志が遊ぶときだけであります。勿論幼兒同志の遊びに於ても、いろいろな事件が起り、幼兒が喧嘩することも少くありません。泣いたり、おこつたりすることもあります。しかしその喧嘩したり、泣いたりするとこらに幼兒の遊びの眞剣味があるのであります。大人が幼兒と遊んでゐて喧嘩が起らないが如く、幼兒は大人と遊んでゐては樂しくもなければ、また眞剣な遊びも出來ないのであります。況んや幼兒が朝幼稚園に来るから歸るまで、毎日机腰掛

に静座してゐては全く遊びも出来ず、眞剣な遊は露程もないであります。従つて幼稚園は毫も楽しくありません。家庭にゐる方が餘程樂しい。家庭の外に出て隣近所の子供と悪戯をしてゐるとこれ程樂しいことはない「幼稚園に行くのはいや」「僕はうちに遊んでゐる」「私は人形とおうちで遊んでゐます」「幼稚園に行くのはいやです」と、駄々をこねるに相違ありません。

五

幼稚園で幼児を楽しく遊ばせるには左程六ヶしい方法は不必要であります。またいろいろの玩具や運動道具を澤山設備せねばならぬこともあります。幼児が十分かけることの出来るだけの廣い庭があり、幼児がとんだりはねたりすることが出来るよい庭があれば澤山であります。よちよち走つてころんでも、たいした怪我をしないやうに、危険物がなければよいのであります。幼児には木片でも木の葉でも、また煉瓦の破片でもそれは／＼尊い遊びの材料となるものであります。立派に出来上つた玩具よりも、そこらにころがつてゐる木片が、餘程樂しい遊びの材料となるのであります。また立派な築山よりも無雑作に出来てゐる丘が幼児にはこの上もないよい遊び場所であります。それですから幼稚園で幼児を樂しく遊ばせる積りで、多くの経費を支出して澤山の設備をなす必要はありません。こはれるから「ぢつてはいけない」「あぶないから使つてはいけない」。「じつと見て御出でなさい」などと、常に幼児に口小言ばかり並べて幼児の活動を束縛するやうな設備は寧ろしない方がよいのであります。しかし一切遊びの材料がない方がよいといふのではありません。また幼児の遊びを放任して仕放題になせといふのでもありません。要は幼児が樂しき生活をなし、その間に身體精神が順調な發達をなし、善良な性情を涵養することが出来るやうに、幼児を遊ばせつゝ十分保育が出来るやうな設備をなし、また幼児の生活を束縛することなく、さりとて放任するのでもなく、細心な注意を以て誘導することが肝要であります。細心な注意を以て誘導することは新入幼児に限つたことではないが、特に新入幼児の保育に於て肝要なことであります。

六

新入幼児が今まで家庭に於て多くは自分よりも年長の者と生活をしてゐたのであつて、幼児同志の社會生活が始めて行はれるのであります。親や兄姉が無暗に可愛がつて呉れるが爲に、家庭では大變に我儘に育つてゐるといふものもあります。また兎角厳格にすぎて何かといへば叱られ通し、泣通しといふやうにいぢけた子供もないではありません。いろいろの傾向をもつた幼児同志が集つて、一つの社會生活を始めるのであるから、その點に十分着眼して、それ／＼の幼児の家庭生活を知り、その幼児の特質を見て、それ／＼の個性に應じた誘導をなすことが肝要であります。無暗に歎心を買ふやうに、幼児のいふなり、するなりに放任することも出來ません。また一々命令したり叱つたりして、教師は恐しいもの、叱る人、こはい人と考へさせ、幼稚園はいやなところと、思はせることも誠によくないのです。

七

新入の幼児は幼稚園に通ひ、幼稚園で遊ぶために大變疲れるのでありますから、夜は早く眠り、朝は早く起るやうに家庭生活を誘導するやうにせねばなりません。一般に幼稚園生活をなすが爲に、幼児の生活は規律正しくなるものであります。今までは度々間食したが爲めに、食事が正しく行はれず、食物に好惡が多かつたものでも、幼稚園生活を始めたので十分運動するため食欲が盛となり、食事が規則的となり、食物の好惡も少くなるのであります。従つて幼稚園に於ける晝食などに於ても、食事のよい習慣を続けることが肝要であり、家庭に對して幼児の食事に關し細心な注意を拂ふやう指導することが肝要であります。

尚ほ新入幼児の保育につき注意すべき事項が多いのであります。あまり喋々することもどうかと思はれますからこの位で中止いたことにいたしませう。